

の人は好きです。蓄音器を聞いたがつて良く村人が尋ねて
何ます。一度は三哩も遠方の人が薪を澤山かついで來て呉
れて蓄音器を聞きに來ました。ペルシャ語だのブント語の
をもつと持つて來れば良かつたとも思ひました。

此の村人は非常に親切に色々世話をやいて呉れます。

處で發電所設置には田が潰されるとかの理由で此の村人は
反對だと云ふことを聞きました。近く總理大臣の處へ反對

宇治橋改築工事の概要

京都府土木部

陳情に行くとも聞きました。これを聞いた時に其の調査に
此處に來てゐることは少し危険だとも考へました。之れ
で護衛兵をつけて呉れた意味も判る様な氣もします。全く
説明の出來ない外國人が、其の工事に反對である村に入つ
て其の調査をすると云ふことは用心しなければならぬとい
思ひました。村人を怒らせない様に態度だつて充分注意し
て居なければならぬと思つたことです。

宇治橋は京都府久世郡宇治町宇治郷に在り古來瀬田唐
橋、淀大橋と共に天下の三名橋として其の名人口に膾炙せ
るのみならず架せられたる宇治川（澗川）は夙に宇治川の
先陣によりて普く人の知る所である。

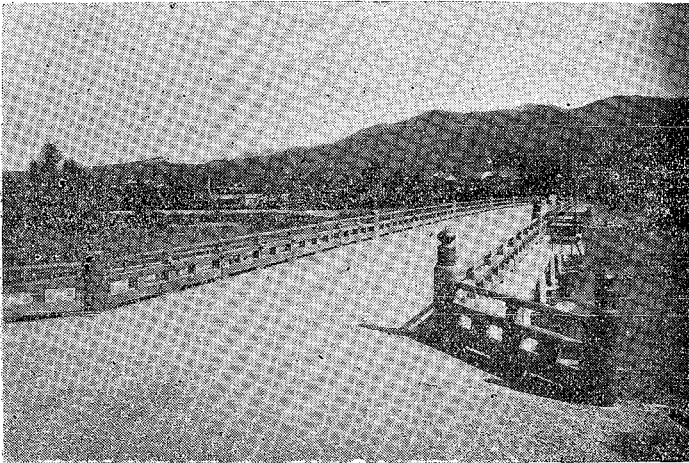
宇治橋架設の起源は大化二年（皇紀一三〇六年）勅命を

奉して僧道登の創設にかゝり其の後觀景、道慶等相次いで
之れを修築し爾來弘安の頃迄其の經營は悉く僧家に依りて
爲され別に管理者は設けられなかつたのである。弘安九年
（皇紀一九四六年）思圓上人の造立して以來橋寺放生院の
管理する所となり放生院は應仁の兵亂によりて其の寺録を

失ひ遂に宇治橋は管理不能の状態となつた。而るに當時洪

本橋の左岸第三徑間上流側に「三之間」と謂ふ突出部が

水によりて流失し爾來百餘年間斷橋の儘放置せられ、天正六年（皇紀二二二八年）に到りて織田信長公は羽柴秀吉を工事奉行に命し造營大いに努めたのである。此の時秀吉は創めて唐銅の擬寶珠二十二基を以て欄干を飾つたのである。次いで徳川氏に至り慶長四年（皇紀二二五九年）改造以來十三年目毎に架換の例を作つたのであるが、明治維新後は地方費支辨となり其の例を見ざる事となつた、爾來流失等によりては單に假橋を架し辛うして交通の用に供せるも、明治三十九年、明治四十五年の兩度に之れを改造し舊觀に復して今日に至つたのである。



宇

橋

治

あり其の起源は明らかではないが最初は待避所であつたらしく、宇治川上流櫻谷より流れて來た橋姫の祠を一時此處に奉祀して本橋の守護神とした事もある、「三之間」直下の流れは瀬田の唐橋下に在る龍宮より通する地下坑より噴出するとの傳説があり、豊太閤伏見在城の節、橋守通圓をして茶を用ふる水を此の「三之間」より吸ませたと云ひ傳へられて居る。

亦往時の交通に於ても古來宇治は東海方面及北陸に至る要路として重きをなし、延暦（皇紀一四四四年）以前に於ては大和と志賀の連絡地點なりし爲往古既に人馬の

往還頻繁にして敷賑を極め平安遷都後に於ては京都有事の日攻守勝敗を必ず此の地に於て決せられ、治承、壽永、承久建武等の諸役が宇治橋を挟んで行はれたことは青史に見ゆる所である。

宇治橋は斯くの如く創設以來兵火に或は洪水に依り流失する事數十度に及び架換修理を起せるも大正九年道路法施行により府縣道宇治大津線として認定せられ京都、奈良、伊賀方面との商取引及び交通に果た軍事上重大なる使命を帯びてゐる。然るに最近の架換は明治四十五年木造を以て改築したるも既に二十五年を経過し橋齡を重ね現在の交通に副にざるを以て茲に架換の必要に迫られ今回其の完成を見たのであるが、宇治橋は前述の如く環境幾多の史蹟と名勝に富めるを以て其の設計立案は是等特殊の事由に鑑み先づ周圍の景觀と史蹟の保存を考慮し古來の形態を存續するに意を用ふると同時に近世の工學に稽へ恒久的工法を採り將來頽圯流失の憂ひなからしむると共に交通の萬全を庶幾したのである。即ち橋型は單桁橋を選び橋長百五十三米、

有效幅員八米とし橋臺二基は宇治産石材張石混泥土造りとし橋脚十三基は上部徑六十浬の混泥土圓柱四本建とし其の基礎は高五米橢圓形井筒とし橋體は鐵筋混泥土を以て橋面には厚五浬の瀝青方塊を鋪設すると共に高欄は臺灣檜材を以て舊橋に模し其の擬寶珠には在來品を襲用するの設計を樹て昭和十年一月九日着手したのである。而して着工に當りては河底の地質堅硬にして井筒の沈下に多大の苦心を要し搗て、加へて昨年夏期の兩度の出水に遭遇し意外の障礙を受けたるも工事従業員の不斷の努力と地方民の絶大なる援助により本年九月二十二日竣功を告げたのであります。其の工費十一萬五千二百十九圓、使用セメント一萬五千三百袋、鐵材百八十五噸、使用人員二萬六千餘人を要し寫眞の如き宇治橋を完成し往時を偲ぶと共に宇治川の清流に風致を添へた積りである。

×

×